まち歩きマップ

すさき市街地

ー 史跡めぐり ー

1. 土讃線ゼロ基点
2. 原町の地蔵堂
3. 坂本龍馬首切り地蔵
4. 高岡郡奉行所跡・文武館跡
5. 川端シンボルロード
6. 糺鴨神社
7. お馬神社（お馬堂）
8. 津野神社（孝山寺（こうざんじ）跡）
9. 須崎村庄屋屋敷跡
10. 圓龍寺の句碑
11. 秋葉神社
12. 恵比須（蛭子）神社
13. 住吉神社
14. 富士ヶ浜
15. 土佐藩中砲台跡と寺田寅彦療養の地
16. 須崎八幡宮
17. ノルマントン号事件の碑
18. 土佐藩西砲台跡（西浜公園）
19. 圓教寺大イチョウ
20. 二つ石大師（大善寺）

すさきSAT構想推進委員会

事務局　〒785-8601
高知県須崎市山手町1番7号
須崎市企画課
TEL 0889-42-5691

平成20年3月発行

史跡めぐりガイドー

① 土讃線ゼロ基点

国鉄土讃線（現JR四国旅客鉄道株式会社）は当初南線（高岡経由）と北線（佐川経由）で誘致運動を展開し北線に決定となる。大正５年、実地測量に着手し翌年須崎～伊野間が完了。須崎港より資材を陸揚げし同８年に工事着手し、同１３年須崎～日下間に高知県最初の鉄道が開通した。その後昭和１０年に高松へ、昭和４５年に中村へと延長していった。

駅前通り起点

② 原町の地蔵堂

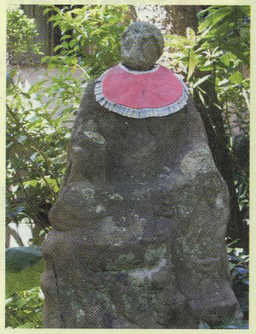
古くから火除けのお地蔵様として信仰されてきた。昔から原町に火災がないのは、このお地蔵様のご利益と伝えられてきた。宝永４年（１７０７年）の大地震のあり、津波が本堂まで押し寄せ屋根上の宝珠の部分のみが見えていたという。須崎村の溺死者は約４００名と記録されている。境内には、昭和南海大地震の碑がある。祭日は、旧７月１６日。

川端シンボルロード＃３を北へ280m

③ 坂本龍馬首切り地蔵

幕末、発生寺(ほっしょうじ)の住職であった智隆和尚(ちりゅうおしょう)は勤王の志厚く、同寺は近隣の郷士や庄屋達の密会の場であったという。坂本龍馬も２度目に訪れたおりに志士達と熱論となり境内に安置されていた石仏地蔵を木刀で一刀にて打と落した。その地蔵供養のために城山より取ってきた松の木を植えたと伝えられている。松が枯れるたびに、有志が植え替え、現在の松は４代目のものである。傍には、智隆和尚の墓がある。

川端シンボルロード＃27を北へ150m



④ 高岡郡奉行所跡・文武館跡

藩政時代、山内氏入国当初は須崎に代官職が置かれ、柏原氏３代が任命された。その後、郡奉行が任命されたが常駐することはなかった。幕末期になると異国船が頻繁に渡来するようになり海岸防護のため嘉永６年（１８５３年）郡奉行２名が常駐し、郡内の子弟を教育するために文武館が建設された。

学科は読書、算術、剣術、槍術、柔術、砲術であった。土佐勤王党の中心人物として活躍した間崎哲馬（呂は滄浪(そうろう)）も下役として在勤する（現、須崎小学校、裁判所）。

川端シンボルロード＃39を北へ20m

須崎小学校正門

⑤ 川端シンボルロード

古くは池田堀と言い、堀川の名称で親しまれていた。多くの魚が泳ぎ、春には小舟を浮かべて桜見物の宴が催されていたという美しい川であった。小説「婉という女」（大原富枝 著）で知られる日本最初の女医、野中婉の父で土佐藩家老の野中兼山によって掘られたという説と、慶長の頃に掘られたという説がある。須崎橋、堀川橋、極楽橋、郡府橋、中ノ橋、眼鏡橋など１０の橋が架かっていた。平成5年に現在の形に整備され、市民の憩いの場となっている。毎週木曜日には木曜朝市が開かれ、冬にはイルミネーションで飾られる。

川端シンボルロード＃59

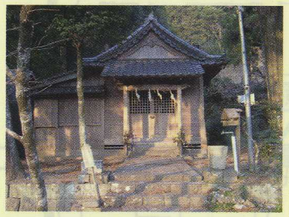
眼鏡橋（川端シンボルロード）

⑥ 糺鴨(ただすかも)神社

創建年代不詳、天正１５年（１５８７年）の長宗我部地検帳に「糺宮(ただすのみや)」と記録されている。京都加茂上社、下社を勧請した。下鴨社の境内地は糺の森と言われ、この森に由来して糺鴨神社と言う。また、天神社を合祭しているところから天神様でも親しまれている。

梅画の名人といわれ、宝永津波溺死の塚の撰文で有名な古屋竹原(ふるやちく げん)も厚く崇敬した神社で、古屋家の寄進した刀や絵馬が伝わる。昔は多ノ郷賀茂神社より御神幸があった。祭日は夏祭り旧６月９日、秋祭り１０月１９日。

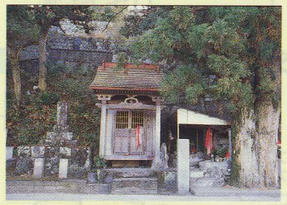
川端シンボルロード＃69を北へ200m先右折



⑦ お馬神社（お馬堂）

土佐の夏を彩る「よさこい鳴子踊り」のメロディー、よさこい節に歌われる「坊さん、かんざし買うを見た純信・お馬」のお馬さんを祀っている。お馬さんは、天保１０年（１８３９年）五台山村（現高知市）で鋳掛け屋の娘として生まれる。五台山竹林寺の僧、純信と恋仲になったお馬さんは、世間の非難の中で、遂に駆け落ちしたが、捕えられ高知に連れ戻された。その後は別々に追放され、結局、二人の恋はかなわぬままに終わった。追放後のお馬さんは、須崎市に住み、１７歳の時に大工米之助と結婚し、２男２女をもうけて約３０年間暮らした後、明治１８年東京へ転居した。お馬さんゆかりの地にお馬堂が建てられ、「縁結びのご利益がある」として親しまれている。

川端シンボルロード＃69を北へ250m



⑧ 津野神社（孝山寺(こうざんじ)跡）

創建年代不詳、戦国末期津野家最後の当主津野孫次郎親忠を祀る。親忠は土佐国主長宗我部元親の三男に生まれ、幼少より津野家へ養子として入る。豊臣秀吉の四国討伐後は人質として大坂へ行く。秀吉の朝鮮侵攻のあり、文禄の役（１５９２年）に従軍渡海する。城下を姫野々より港町須崎へと移し領国経営に専念するが長宗我部家の内紛により岩村（現香美市土佐山田町）に幽閉され、関ヶ原合戦（１６００年）の後に切腹する。領民は孝山(こうざん)様として各地にお堂を建立する。秋祭り(旧９月２９日)には、高知県無形文化財大谷の花取踊りが奉納される。

川端シンボルロード＃14を南へ30m

⑨ 須崎村庄屋屋敷跡

山内藩政時代、須崎村（郷浦）に庄屋が置かれ、川渕氏が幕末まで代々世襲をして村方の支配をしてきた。幕末期には、土佐勤王党で天誅組に参加し、大和十津川で倒幕の兵を起こした吉村虎太郎が転任してきた。虎太郎は、郡奉行の役人と宴席で口論となり呼び捨て事件を起こす。その後、下分村庄屋（新荘）へ転任となる。明治１５年から須崎での伝道が開始され、明治３９年にこの地に教会が建設された（現　日本キリスト教団須崎教会）。

川端シンボルロード＃37

生垣の左端に石碑がある

⑩ 圓龍寺の句碑

境内に松尾芭蕉の句碑と２つの句碑が建っている。須崎の文人が、「奥の細道」の句集を編した俳人芭蕉を畏敬して建立した。

「春もやゝ景色ととのふ月と梅」
芭蕉句碑を天保１１年（１８４０年）一盤(いちばん)社中(しゃちゅう)が建立。

「かねてより脱ぐべき笠や月と梅」
六華庵茶夕の句碑、明治３６年建立

「真心を移せば尊し月と梅」
四沢庵春江（医師宮尾司）の句碑、明治４３年建立

川端シンボルロード＃44

左から「四沢庵春江」、「芭蕉」、「六華庵茶夕」

⑪ 秋葉神社

江戸時代から青木町商店街の火災の守り神として信仰されてきた。境内には樒(あおぎ)の古木が１本そびえている。この通り（辻）を樒ノ辻と言う。町名青木町の由来になっているシンボルの樹木である。

秋葉神社祭日は、旧７月２３日。

古市通り＃0

⑫ 恵比須(えびす)（蛭子）神社

天正、津野氏の頃（１５００年代）、長宗我部地検帳に「夷(えびす)ヤシキ」と記録されている。江戸時代、町が大火で燃えたとき、この神社が焼け残ったことから町の繁盛と火を防ぐ神としてあがめられている。藩政時代には奉納相撲が行われ、蛭子(えびす)相撲といって近隣にも聞こえていたという。明治以降は、火鎮祭相撲として富士ヶ浜で須崎消防組が主催してきた。古市町通り商店街商売繁盛の神として１月１０日にえびす祭りが催されている。

古市通り＃15

⑬ 住吉神社

創建年代不詳、天正１５年（１５８７年）長宗我部地検帳に「若宮馬場」と記録されている。住吉三神を祀っている。この付近は昔、釣町といわれていた。住民に住吉様と親しまれ航海の安全、漁業の守護神として信仰されてきた。境内地には住吉神社のほか秋葉神社、蛭子神社の二社も祀っている。昔は多ノ郷賀茂神社の御神幸があった。戦前に昭和天皇がご巡幸のあり、軍馬をご拝謁された所でもある。

駅前通り＃39を西へ60m

左から「秋葉神社」、「住吉神社」、「蛭子神社」

⑭ 富士ヶ浜

天然の良港に恵まれた錦浦湾（須崎湾）は昔から風光明媚な海浜であった。沖から遠望すると富士山のように美しい浜から富士ヶ浜と名づけられたという。昔は、正月の３～５日の３日間、浜付近の特設土俵で火鎮祭大相撲が開催され多くの見物客で賑わっていた。大相撲の横綱照国(てるくに)や吉葉山(よしばやま)などもやってきた。湾内には戦時中、人間魚雷特攻基地も置かれていた。周辺には、魚市場があり、水揚げされた魚のセリで賑わっている。また、８月には花火大会が開催され、多くの見物客で賑わう。

魚市場通り＃30

⑮ 土佐藩中砲台跡と寺田寅彦療養の地

文久３年（１８６３年）に西砲台と共に築造された。大砲、薬室庫とも４門が備えられていたが明治に民有地へ払い下げられ、僅かに市道北側の高低差にその面影を残している。明治３４年高知出身の物理学者で随筆家であった寺田寅彦が療養のため大西旅館（現社会福祉センター）へ８ヶ月間滞在した。その間、海辺を散歩してスケッチをしたり、音楽を楽しみ須崎の人々と交流している。文学誌「ホトトギス」に発表された随筆「嵐」に書かれているヤマブキ（山吹）の木は今も同所で育っている。「天災は忘れたころにやってくる」、地質学者としても有名である。

めがね橋通り＃32を東へ320m

⑯ 須崎八幡宮

鎌倉期、正安３年（１３０１年）この地に八幡宮が祀られていた。戦国末期の武将津野孫次郎親忠（須崎城主）が奉納したと伝えられる甲冑、武者人形が保存されている。宝永の大地震の津波で八幡宮の神輿が伊豆まで流されたが、流れ着いた伊豆では豊漁が続いた。この噂が須崎まで聞こえ、伊豆まで神輿を迎えにいったことが木札に記録されている。夏祭り(旧６月１５日)には、市指定無形文化財絵金の芝居絵が公開される。秋祭り(１０月１５日)には、県指定無形文化財多ノ郷の太刀踊り（花取踊り）が奉納される。

めがね橋通り＃24を東へ90m

⑰ ノルマントン号事件の碑

明治１９年１０月、横浜発神戸行きの英国汽船ノルマントン号が紀州沖を通過のあり難破した。船長以下２６人の外国人船員全員はボートで脱出したが、日本人乗客２３人全員が水死した。そのなかに、新土居（現津野町）の山崎正善も乗船していた。裁判では、幕末に締結した不平等条約によって船長は無罪となり、裁判の不当性に国民は憤慨した。政府は条約改正に向けて諸外国と交渉を重ねて条約改正に成功し、日本が近代国家へと発展していくきっかけとなる。この碑は、条約改正を祝って海に近いこの場所に建てられたものと思われる。

めがね橋通り＃24を東へ80m

⑱ 土佐藩西砲台跡（西浜公園）

幕末、土佐藩は海岸防備のため浦々に砲台を築いた。須崎にも文久３年（１８６３年）に着手し、約４０日の工事で東、中、西の３ヶ所に砲台が完成する。大砲、薬室庫ともに西砲台は７門、中砲台は４門、東砲台は３門が備えられていた。現在は、西砲台跡のみが西浜公園として保存され、昭和１９年国の史跡に指定されている。維新の志士坂本龍馬も入港し、伏見の寺田屋お登勢さんに無事入港の手紙を送っている。

めがね橋通り＃27を南へ20m先右折

⑲ 圓教寺(えんきょうじ)大イチョウ

高さ約１５メートル、周り５．７メートル、推定樹齢５００年。別名「乳いちょう」または「水吹きいちょう」と言う。地上２～３メートルのところに乳房のような瘤がある。母乳の出ない女性が祈願するとよく出るようになるという。また近くに大火があり、本堂に燃え移ろうとした時に南風が起こり枝葉から水を吹きだし火を消したと伝えられている。

昭和４１年須崎市保護文化財（天然記念物）

川端シンボルロード＃74を西へ250m

⑳ 二つ石大師（大善寺）

昔の西町大師堂付近は、海中に突き出た岬であった。先端には大きな二つの岩があり、その間を廻って通行していたので海に転落する者や水死するものが多く難所であった。

ある時、弘法大師が巡礼のおりに水難防止と航海安全を祈願して仏像を刻み、お堂を創建したのが二つ石大師の起源と伝えられている。その後「二つ石のお大師さん」と誰言うことなく言われ、今日に至る。山腹には、四国別格２０霊場５番札所の大善寺がある。

お大師通り＃31